
風のグラスゴー

玲於奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風のグラスゴー

【ISBN】

N3881-Y

【作者名】

玲於奈

【あらすじ】

英語のだめ 海外留学体験記

海外留学体験記

なぜ、私はここにいるのだね。
気がつけば、ここにいた。

空がほんとうに高い。青空が広がっている。
ここまで空が青いとは。
息をのむような青さ。
宇宙に広がっているのか。

飛び降りる。
飛び降りるふりをする。
わからない。

そして、そんな自分に笑う。
なぜ、笑うのだろう。

しかしながら、崖沿いの葉がきれいだ。そして、私はここにいる。
何をしにきたのだろう。
全くわからない、切り立つた崖、断崖の絶壁。
私は死のうとしているのだろうか。
わからない。なぜかわからない。

第一話 日本食で悶絶

死ぬ前に食べたあああああ。

エビフライおにぎりーーーーー。

ご飯でえびフライが包まれていて

見た目は、コンビニの、チーズとか入ったやつ

でも、ご飯で勝負の一品。

地元は、みんなおやつはそれ。

知るかあ。（読者の叫び）

地元の名産。

こんな外国でだれもしらんべ。

日本食食べなくて、何ヶ月目だ。

おいしいんだそう。

死ぬ前に食べ物とは、情けない。

それが欲求不満の原因なのか。

これで、死んでいいのか。

泣けてくる。つまらない人生。

こんなことのためにここまで来たのか。

そう思うと、あのだいつきらいな中学時代を

思い出した。

英語なんて、くそくらえの、時代。

なんで日本人なのに、英語を話さなければならないのか。

なんでなのだろう。

彼が英語嫌いなのは（前書き）

なし

彼が英語嫌いなのは

英語がだいつきらいのは、
ひとえに中学校の担任の影響が
大きい。

中1の担任は、吉原ていちやー、国語教師。

温厚な先生だった。

今、思えば、日本語は先生のために
あるようなものに思えた。

その後、大学までいったが、

あのような温厚な先生をみたことがない。

とつとつと、語っていた。

特に、昔のやつ。

なんだか忘れたが、徒然草だかなんだがが、
とても冴えていた。
というか・・・

こちらが初めてだったので衝撃だった。

「佐藤君、おかしといふ古語の意味がわかりますか。」

おやつだと思った。

佐藤君の家は、開業医で、万事そつなく、クラスの人気者。

彼が、「趣があることです」

と言った時、何をこの人は、言っているのか。

と思つた。

しかしながら、吉原先生が
優しくうなずきながら、正解です。
よく勉強していますね。

と言つた時、本当に驚いた。

本当に本当におどりやつた。

未決済分(複数用)

なし

お泊まつ会

担任の吉原一、以後ティーチャーの略で一とする。

吉原一は優しかった。

近隣の学校の、学校での宿泊を伴つ
レクレーションを禁止しましよう。とこつお達し。

F中、だめ。

A中、ばつ。

G中、だめだめ、だめ、接待ゆるさん。
もとい、絶対ゆるさん。
絶対に悪意を感じる。

中体連で知り合つたやつらからのメール。

親切だ。

情報をありがとつ。

うつでながしたんだけどね。

先生の間でおつたされたのだろつか?????
言葉がわからないが・・

相当の包囲網。

まさに万事急須。

きゅうすは、これでいいのか。
教えてくれ。誰に言っているのだ。

ところが、

ところが、ところが、YT

(吉原Tをさらに略す、本人YKKでよぶな。意味不明)

頑として無視。

全くもって、学級に任せてくれた。

そして、開催された。

なんだかわからないけど、学校で泊まろうっ！

お泊りつゆ（後書き）

なし

学級教員の命令（複数形）

なし

学級委員の命令

学級委員長の命令ーー！

とこりか、期待やつ。

来たいやつだけ来ればいい。

とこりじとで学級の内容。話しえどもよくわからず。
開催！…………！

よくまあ、ヤー（吉一許したな。）

とこりか、よく承認されたな。

とこりか、学校に無許可なんじゃないの？？？

とこりの話も後日、後日あり。

内心、心穏やかでない。

内申に響く。響くよね。

そのような方は、適時解散。

いぢお様子はみこきたよ。

とこりか、

E美、「頑張つてーーー！」

（何を頑張るのか、うちらもわからない）

と言つて、ジャンクフードの差し入れ、ありがたい。

100苑、なんとかでないと買いにいけないものばかり・・・

とにかく、うちらは午後7時に学校に集まり、何をするでもなく。

なんとなく、学校の周り。

堀にそつてぶらぶらし。

多いこと田立つ。との声で。

なんとなく燐々午後。（いいのか、漢字検定合格者教えてくれたびたび思つが、誰に言つてるーーー！）

学級委員の命令（後書き）

なし

警備の小池さん（前書き）

なし

警備の小池さん

警備の小池さんに迷惑かけるな。

誰かがざわついた。

小池さん。頭があがらない。こないだ、R壇に、逃げだすといふを

見逃してくれた。と、授業中、

と、こつか4時間田終わり。

と、こうか、給食あるのになぜ・・・。某工数学教諭と
息のあわないもの多數。

意味不明。

そらひこ、そらに、そら、小池さん、三者面談のばっくれ。

うひひひにから。わかるよねえ。

協同不審。わかるよ。

職員室からもなんか言つてゐると思われる。

見逃してくれる。誰もがありがたいと思われる」と

一度や二度や、四度、五度・・・

仮の顔も三度まで。

坊主になつた人もいると聞く。が、人生買われるのは素晴らしい。

そして、そして、そして。 . . . 。

さらに、強力妨害キャラ。

まさに、ボスキャラ。

進路指導のPT、もとい、P教諭。

だつたじやすまない。昼休み。終わることなく、放課後の

説諭。意味はわからないが、自称説諭。なんだろ。

自称はなし。ろんげなの。いやかつら、失礼アテラソス。

これは古いが、とつせんのことでみんな言つ。
(教えてください。誰に言つてる)

わからないが。みなの恐れるとおり、説教ワールド。

さらうに、時々、私立の娘さんの説教も入る。多分・・・予感。

なぜか、涙ぐむ。うちちらに関係ない事いつ。

特に、業者テストの点。おかしい。そんなにとれない。

警備の小池さん（後書き）

なし

kerororovoso (前書き)

なし

keroroboso

昨日の悪夢がよみがえる。

怒られの、冷の感情が入ってしまった。話をもじやつ。

みんなが、なんとなく散策、部活の忘れ物、

生徒会、部活、単なる教室もどりを装い、

単純に忘れ物を装い、

壇に沿つて、さりげなく学校に近づく

忘れ物などを理由に校内に入る。

小池さん、聞いてないふり。うまい。ですが。

といつが、最初から学級レクと言え……！ 担任。

そこが担任をせめられないところ・・・

そして、笑えるのが何をするのでもなく。

なんとなく、氣にいった教室に行く。

そして、そして、

氣にいつた仲間で朝まで過ぐす。との指令。

これって学級レクなのか。

もちろん、担任は、成績処理とのことできょううと一緒に

許可をとり、職員室のセコム、操作。。。らしい。
くわしくは、トップシークレットとのこと。
おいおい。あなたは、トムハンクスか。
WIIつか。

と・こ・ろ・で。K君。

なぜ。毛布がある！！！！

かくもへせむ

セコム来る

「どうか、てんと教室にはるなああ。

くれよんしんちゃんかあああ

なんとなく言ってみました。

と云ふが、その三番地シクヤウノ。

よく怪しまれなかつたな、といふか、山岳部か。

K男。みんなの荷物運び。やるなあ。

山岳部わまたま。

えらい。

みんなそれぞれだらだらモード。

わよーとーも、校長が帰ったので、すばやく6時帰り。

他の教員には、さすが、担任、それに工作。

K朝なみ。

パチンコ好きの〇一、まさかわしい。

人文字か？〇教諭だろ。

駅前、Mはんの大出血サービスのちりじ。

さらに、K、F、A Tには、コンパの誘い。よく看護学校とつきあ
いあつたな。

それだったら、担任結婚しろ！――！。

悪いことはいわない、シャツ2度着はやめろ。召集・・・かけられ
るべ。

なかなか暗号チック。

独身の居残り組。まだいた、
単純にいかない。フラワーアレンジメント、僕と一緒に行きません
か。

みくやるね。担任。愛を感じじる。

ふつうひくよな。

行くか、帰るか。

・・・・・

帰ったか。

担任の今後を祈る。

まあ、休みも近いし・・・

しかしながら、

よかつた。これで、学校占拠。

あとは、もとい、誘惑の聞かない機械。

ロボコッく、

し込むのみ、氣をつけるべし。

べし。べし。

kerorososo(後書き)

なし

こと めかし(眞瀬せ)

なし

こと おかし

微妙な学級レク。

まあ正規じゃないからね。

でも、なんとなくみんな満足やつ。

学級全員いわんじやないの。

委員、点呼もしていない。自由です。

しかし、

なぜか、なぜか、正面玄関に集つ者。多数。

なぞ。

なんとなく集まつ、なんとなく、だべる。

探検するかとの話。

まあ、2・3人でまわつてこいつのひと。

でも、勝手に教室で「さあ」やつている者もいる。

怪しい意味也可。

お化け屋敷の逆バージョン。

教室にいる方がびびる。

誰かが叫ぶ。

担任はびつじた。

嘘とはいって、フラワーアレンジメント
ショックのようだ。

何か泡の出るジュースを飲んでいる。

そつとしておひら。

みんな同意。

それやくなんとなく探検始まる。

時間は22時。

丑三つ時には、まだ早い。

こんだけいい担任だから、参りをするやつはないだらう。

某数学教諭は危険。

廊下を歩くのが静か。

どうぼうだ。

しのびあしだ。

バレーみたいな、当シユーズ？やめーい。

ていつか習つてたのか。

K子の借りるな。

男がやるな。

図書室、カーペットびき。

開ける。寝てる。何時に寝るよねん。

陸上部のY。朝練疲れか。

丑三つ時に起きるなよ。

祈る。祈祷するな。

十字さくるな。

次。

理科室。

さすがに、こじはこちらもこわい。

ここも電気消えている。

誰もいないのか。

がらつと開ける。

怪しい光。

やばい。

でたか。

何でやねん。

電氣部か。おたくのつどいか。

鈴虫に、螢光塗料塗るなよ。

こわい。物体鳴く鳴く。

それを観察するな。

しかしながら、電氣部の新たな進化。

集団。協力。

といつか、他の学級まで集うな。

ただちに籍口令。そして、撤収。

解散。

「ついでに理科室は無人となつた。

担任も ろぼうじー上 楽だろ。

なんだか疲れてくるもの、途中でいなくなるものありけり。

どうでもよくなつたのか。

23時で、某アイドル番組に流れるもの。

にんぐむ に流れるものもあり。

いと おかし。

ていうか、この表現あり?

ていうか、なんでみんな携帯テレビ持つてるの?

とにかく、携帯でテレビ見るやつ。パケット料金大丈夫か?

なんとなく、それぞれの部屋に解散。

だべりんぐ開始でしょう。

といひで、

女子は、なんであんなにお菓子もつてゐるわけ。

こと おかし（後書き）

なし

「ハセキルマサヒロ（福井利）」

なし

「ハコのひやくわ

れど、時刻はてつべんを迎えた。

べし、べし。

強光灯の電氣をつけると

怪しきれるとのじとで、懐中電灯。

もじへは、キャンプ用のライト。

もじりこなべ不可。電池用。

おこおいなんだ。

いじりせ二階だぞ。

あの幽しき光は、まづあぐりかひ

向かつてくるだ。よもや。

人だまか。

丑三つ時への前兆か。

いじりせ、昔、墓地だった。うじしきつて。

電氣部の古田やめりよ。そんな古典的な。

もとい、陸軍の軍舎だつたつて。もつともふるぬぜ。

つて、トイレの扉を半開きで、体、半身で話すな。

おまえはトイレの花子さんか。

なになに。人だまの原理は。

人間の骨にあるリングです。

おいおい電氣部、科学的知識できたか。

まじ、だぜ近づいてくるぜ。
音もないぜ。

ああああああ！！！

ああびっくりした。

おいおい山岳部のK男か。

ところで何してるんだ、あんた一人で

こんな長い廊下歩いて怖くないのか。

なんだよ。ザック化よ。

さうに巨大に見えるぜ。

アーリー、ベッチャーハンプかよ。

マーテックなもの持つてゐな。

高こ位置こへシテリーンあるから、

長こ廊下歩こへるもあ怖いぜ。

なこない、山でガスつた時の方がもつと

こわい。一歩まちがつたら崖から転落。

まさに一寸先は闇。

おせなしへしまじゅうか~。

おこおこいさんなどいりで、お田舎話か。

つて話、途中なのこ、さり行へーーー。

べしべし。

ガスリの時の訓練に持つてこい。

なんじややつやあ。

いじみつじまご（後書き）

なし

asa もで

トトロ（繪書も）

なし

a s aまで テレビ

つて、ひきもどすな。

なになー。

ここまで来たら朝まで、生テレビ。もとい、

限界に挑戦。ギネスに挑戦。

誰が最後まで起きているか！――――――！

おこおいなんじやそりやあ。

いえつつついて、何で急に大勢

出でくるんだ。

そりや、なんじやその録音器具は、

なになに、放送部のK田が、

「ビッククリ日本新記録！――ぱくり晩」で収録して

どこかで使いたいって。

ぱくり晩。。。。

晩つて何よ。

そして、ビックで使つのよ。

えつ、ゴーチューブ。

おこおい、ゴーチューブって

テープとかの録音流せるのか???????

なんか適当に言つてないか。

まあ、いいか。やれやれ。

いえ――――いつて、あんたら、テレビの

おばあちゃんの笑い声かよ。収録かよ。

つて曲流れるなよ。

つていうか、K田、なんでビックリ日本新記録の曲

持つてるのよ。

なになに、前に錦のあきらが出た、めちゃいけの

やつから持つてきた。あんた、よく撮つてるね。

えらいよ。

「みなさん、これにちは、今日もやつてまつました、

「ビックリ日本新記録ぱくり晩のお時間です。」

つて、あんたうまこね。

なんとかつていつアナウンサーによく似てるよ。

「本日も解説に東海林さんを迎えて、、、なんたらかんたら

つてワイドショーかい。しぶいよ。

E のー

kーーー。

ぼm。B-。い=え。

なんだ、なんだ、なんだ、このフェッドラウトしたといふからの

小さいミコージックのインは。

いえーーーーー。

つてなんだこの大歓声。深夜だぜ。

いのー、ボンバーいえ。

いのー、ほんばーーー

つて、体操部。踊るなよ。

おいおい誰だよ。リング作るなよ。

つていうか、リング上に後ろから光イン。

バツクライトかよ。後光のようだぜ、

誰だあの覆面は。

一瞬間。

つか担任かよ。つか、ちょっとした学園祭の余興か。

担任、首とか体すげー赤くないか。飲み過ぎだ。

覆面どるなよ。顔開けー。つか大ジョブか。

おいおい本当に戦うのか。

戦うのかゝゝゝ。

あさまで テレビ（後書き）

なし

時を×少女（前書き）

なし

時を×少女

喧噪の後の静寂。

なんだか狭い空間だ。

白い小石がたくさん。

足の感触がこじわかい。

そつか玉砂利か。なぜ。

周りにしきつめられている。

その中央には。

長方形の木の枠。まわりは、いい木だ。

～調子にのつてこるわけではない。

いいにおいがある。

その中に、どんよりとした物体。

もやつてこる。

そうか、湯船か。

浴場だ。

壁までそんなにない。窮屈な感じがする。

何人かの人がいる。けつこいつこぎわっている。

ざわつきが聞こえる。

今、氣がついたが。裸じやないか。

脇に、脱衣か。なんで、ここに。

あるんだ?????

なんだ。

なんだ。なんだ。なんだ。

誰かが、声をかけている。

思わず、玉砂利を浴槽に落としてしまう。

「なにやってんじゃ。てめえ。」

一声に体がこわばる。

その拍子に、また白い石をこくつか

木の枠から滑り出し、浴槽に落としてしまう。

静かに沈んでいく石・・・・・。

浴槽の中で小さな泡があがっている。

よく見ると、石から泡がでている。

「おんじつや、何、ぬかすか。」迫力がある。

本氣と書いてまじと読む。古い。

相当怒っている。ギャグじゃない。

強ばる顔、体を押さえて、相手の方を観る。

湯船の向こうに。相手が見える。

いつたい。何者。・・・

あなたは誰。・・・・

ここはどこ。・・・・

わたしは一体誰。・・・・

何を私はしているの・・・

時を×少女の曲。

小さくイン。

小さくはいつて大きくなつていぐ。 CM

なんじやそりやあ。

時を×少女（後書き）

なし

わんじやま（前書き）

なし

わんいかま

“ひつやり、強面のおひさま。

年齢60歳くらいか。やや不詳。

しぶいし、怖い。

浴槽に落とした石。

脱衣か〜。

その事で

お怒りのようだ。

改めて、浴槽を見ると。

周囲には、老若男女（せうなんて読む）しうつゝ

多数。

子ども連れもいる。

だが、みんなの眼は冷ややか。

怒られて当然の様。

暴力バーではないらしい。

あわてて、石を拾おうとするが、

体を流していないうじく、

さうに罵声を浴びる。

だがどうあるともいきま、

腕を伸ばして石を拾う。

拾つて脇の玉砂利に戻す。

全部は拾いきれない。

いいかげんあきらめて。

「い」めんなさああい。」と弱々しく叫んで

この場から逃げ去る。

かじを脇に抱え、

浴場の向こう側にいく。

よくよく見れば、浴場の向こう側には、

脱衣所が整然と並んでいる。

なぜ、私だけが。。。。

また音楽がインしそう。

頭がいたい。

多くの人のざわめき。

誰かが何かを呼んでいる声がする。

「こひはゞ。。

張りのある何かがふる。

声がする。

若い声だ。

慌てて、かごの中野、ものを。。。

ざわつきが大きくなる。

私を呼んでいる。

なぜ呼ぶ。どんどん、呼ぶ声が近づく。

突然。

誰かが私の前に立つ。

なぜ。

本当になぜ。

若い女性。20代前半と思われる。

若手のわんこそばの衣装?????のような。

かすりの着物を着ている。

赤い帯がまぶしい。

「 様、行きつけのお店 大将

大将のマスター様に選んでいただきました、

陛下もご賞味されたまんじゅうそばにこ

なります。」

なにを言つてゐる。

なんで、私の名前を知つてゐる。

行きつけの大将。

なつかしい。断るが、

餃子のお店ではない。

少しうれしい。個人情報は流出しているが。

脱衣場の向こうに、テーブルが広がる。

わんいかま（後書き）

なし

血ニ田嶋（前書）

なし

白い四壁

広がったテーブル郡、

意外に部屋は思ったよりせまい。

10畳くらいいか。

いくつか、何か置いている。

自分の名前が殴り書きされている。

小さい四角柱の透明なストーンが

重しで置いてある。

その下には、

うちわの形の紙が重ねてある。

なぜか。

必勝！――――――！

なぜ。

何に勝つ。

なににだああああ。

意味不明。

手にとつてながめてみる。

シールのようだ。

結構使えるかも。。。

なににだあああああああ。

そして、その脇には、カード状のものが

重ねてある。

長方形の名刺サイズ。

赤の枠で囲つてある。

手の上に広げてみると。

赤の縁枠にまわつて、

中に金色の「ゴールド」のものもある。

さら、赤枠でも正方形のもの。

小さい長方形。

とつめこなラミネートのようなもの。

なんと、全部名刺。

「おまかせください。結婚は私たちで。」

婚活か。

ふと壁を見る。

Nが他県で婚活パーティ。

おいおい、ちらしだ。

万代橋そば。会場の地図がある。なぜここに関東でなくNがた。

絶対大丈夫。大丈夫なのか。

次。

大将に選んでもらった。

まんじゅうそばが食べられるらしい。

さつそく頼む。

その時。

向こうの廊下の奥から、

一列で歩いてくる一団。

どこかで、みたイメージ。

ゆっくりした、スローな感じ。

フラッシュバック。

後光がさしている。ぶろつけん現象か。

ドップラー現象か。

「 「 「 白鳥先生の、総回診———。」 「

白い教頭。

白髪か。

もとい。

白い巨頭。

でも一列。赤い服が多い。

もしや、名刺の。

あわてて名刺を見る。

婚活アドバイザー集団だ。

温泉で婚活。なぜ。

それに田をつばわれ、

点になる。

あこよ。威勢のよー声。

突然。田の前に、そばがきた。

ずすずすと食べる。する。

うまい。なんて言つていいかわからない味。

なんとも言えない味。

が、うまい。

一息で食べる。

食べ終わって、カードをそのまま

奥へぶらつく。と言つか引き寄せられた。

奥は、ちょっとした近代工場のよくな、

白い白衣に、帽子を、マスクをかぶった人たちが

つけものをしわけてている。

「じぶりの樽から出して、それを別な樽につけなおしたり、

小さな袋や、タッパに入れている。

なんとなくうるつく。

近代工場のように、なぜかロボー。

密が近くでいいのか。

ギャップがはげしい。

突然。パバーーと呼ばれる。

誰のこと。

もしかして、

小さい3歳ぐらいの男の子が足にまとわりつく。

いつ結婚した。

といつか、自分の子どもなのか。

あらたな結婚詐欺か。。。。

「なんだここに居たのか。」

しわがれた声。初老の男性が近づいてくる。

田は笑つている。

「探したぞ。おじさんも待つてる。」

わけもわからず、

一緒に、もと来た廊下を戻る。

子どもは手をつないでくる。小さな手だ。

戻り際、

誰かとすれ違つ。

その時。

ビシーン。

まさか。

なぜ。

背負い投げ。

後ろから投げ飛ばされる途中で、

時間が止まつてゐる感覚。

スローモーションでながれしていく。

床に、ビシーンと、打たれる。

「まこつたか。」

見れば、わきまびの浴場で私を激怒した

強面のおつかん。

「ヤコ」と笑って云ふ。

このまま意識が無くなるのか。

田の音が白くなる。。。。。

白い田舎（後書き）

なし

意識回復（前書き）

なし

意識回復

遠くで何かが鳴っている。

なんだ。

あの音は。

ずしーん。ずしーん。

よつ。

とう。

ずしーん。ずしーん。

よつ。

とう。

ずしーん。ずしーん。

じじはどじだ。

白いもやがかかった感じ。

天井の壁。

どこかで見かけた壁。

ゆっくり起きあがる。

何人も倒れている。

どうした。

何かにやられたか。

遠くに巨大な何か。

白い棒が4つ。

ひものようなものが取り囲んでいる。

リング。

そうか。プロレスの最中。

トランス状態に。

ここは学校か。

慌てて窓に駆け寄る。

校庭。

誰かが、声を出して

叫んでいる。

誰だ。

何が起こつた。

目をこらす。

陸上部のY。

高飛び練習だ。

朝練やるなあああああああ。

ついでい――――――。

そうか、あれは夢だったのか。

よかつた。

悪夢だった。

意識回復（後書き）

なし

月光仮面（前書き）

なし

月光仮面

ほつとへたりこむ。

なんちゅうフレクだ。

そのまま後ろにひっくり返った。

ざわめきを感じて起きる。

教室の時計が5時過ぎを指している。

もそもそと起きる。

なんとなく昇降口に向かう。

まだまだ テレビ。

起きていたような人々が集っている。

毛布を肩までかけてだべりこんでいる。

いろいろな場所から集ってきていくようだ。

番組は続いているのか。

外で担任がたばこを吸っている。

背中が寂しい。

校門の方から誰か来る。

すこい早さだ。

何事。

どこかで見たかつこう。

教頭だ。

担任へつかみかかりそつな

勢い。

らりあつとをくらわせそつだ。

すさまじい勢いでまくし立てている。

外ゴミ箱を頭上に持ち上げ、

だれかがせまる。

思いつきり投げる。

きれいな放物線を

描いて、

ゴミ箱。

がつしゃ0000000ん。

教頭。

四三〇

投げたやつを追いかけている。

10代は早い。

つかまらない。

いちもくさん

消えた。

すばらしい月光仮面か。

どーこの誰だか

知らないけれど。　。。。

昭和。

月光仮面（後書き）

なし

白い大きな入道雲（前書き）

なし

白い大きな人道雲

翌日

晴天がまぶしい。すかつとした青空。
そして、その田も曇かつた。

軽く35度は超えた。

レクに参加した全員。

校長もとい教頭に

反省文を書かせられた。

きつたり4枚。なぜ4枚かは謎。

「めんなさい。」めんなさい。と

果てしなく書く、猛者もいた。

「購買のパン、2個で請け負ひ」

との同学年他学級の甘い誘惑に

心ひかれたが。

(おいおい、代筆業者か。

こんなことで小銭をかせぐな。)

内申がどうたらうつ輩はいなかつた。

それぞれ、みんな学級学園祭だつた。

と満足だつたのだろう。

(他学級もマネしたがつたが・・・)

といふで、

吉原T。 YTは。

もあらん逃れられず。

4円のあの温厚とも

つゆときえ。

7月までの短い間だつたが・・・

学校の関係者の多くを裏切り。

そんな先生じやなかつた。

うちらが変えたとの話も

上級生や、一部学校関係者から

ちりめり。

もともとの性格を纏していたとの話も

ありけり。

幸いPTAは騒ぎ出さず、

一部 S徒描Dぶ朝は、

やつとりのお冠だったが、

特に他学級への波及を警戒。

しかしながら、

Mはんや、看護学校の先生方が

すばやくフォローをいれ、

(なかなかよかつたらしい。いろいろと)

重い処分や、飛ばされることもなく。

引き続き、つちりの担任。

Y-Tとなつたのである。

めでたし。めでたし。

おーいそれでいいのか。

夏休み明け、空はじこまでも青く。
白い大きな入道雲が山からわき上がり、
そしてきつちり35度超えの夏でした。

9月のことであつた。

白い大きな入道雲（後書き）

なし

クレアラシル（前書き）

なし

クレアラシル

話を戻そう。

そのような不思議な国語担任。

YT。吉原T。

私は、国語に強くひかれたのだ。

キャラクターによるところも

大きかった。

今、考えると思う。

そして、ついに登場。

主役キャラ。

英語T。

クレアラシル。

解説しよう。

彼女は、英語のイントネーションを

私たちに教えるべく、

口を大きく開け、

開けすぎて口の脇が

やや切れる

そこで登場白い薬。

なぜか、みんながクリアラシルと呼ぶ。

今振り返ると。

二三九

何か E.T.（英語 T 略）か

私は、皆さんのために、

豊かなトランジット＝シティのための

口が切れるの。
×
「この薬を塗っているの。」

と授業中、熱演もとに

説得？？したが

誰も薬名を覚えず。

以後、引き続き

クレアラシル。

謎が謎を呼ぶ。

クレアラシル（後書き）

なし

これでいいのか日本人（前書き）

なし

これでいいのか日本人

私は確信する。

小学校から中学校にあがつて、

なんとかとかの教科で

少し英語をしたような氣もするが。

やはり、はじめのイントネーションが

すべてを決定したのだと思つ。

学力は著しく低下した。

そして

2年で恐るべきことが起きた。

外国の先生が授業をすることになった。

いいのに、国際化に備えなくていい。

学費もあがるからやめと」「つよ。

うちらの心のつぶやきは関係なく。

そして始まつた授業。

冒頭いきなり。

い・き・な・り。

ゲームをするといつ。

早口でルールを説明する。

わからない。

英語でなんとかといつて、

ゲームはスタート。

なんとなく。

相棒（某ドラマではない）の

といひへ、

徐々に集まる。

「なんだべ。」

いきなり捕まれた。

廊下に直行。

後で知ったが日本語禁止とのこと。

英語授業は日本語禁止と後で
知った。

なぜ、説明を始めにしない。

したのだろう。多分英語で・・・

「なんだべ。」

で私の英語人生は終わつた。

これでいいのか日本人。

なんだかどつかの番組名だ。

これでいいのか日本人（後書き）

なし

なし

暗黒時代

こうして暗い英語時代を過ごした。

まさに暗黒時代。

思えば、ローマ字もかなり怪しかった。

登下校で街に行く。

車の後ろの、社名。

車の名がわからなかつた。

TOYO まる

ティオとか読んでいた。

スペイン人か。

ギリシアの人か。

相当やばかつたらしい。

(友人談話)

ひいいていたらしい。

密かに。

本人には言えなかつたそつだ。

もちろんそつであるから、

学力も低空飛行。

40点が危ないと

言われていたが、

よく40点だいをキープできた。

ヒキビキ、砲弾にあたり

30点圏内に落下しそうに

なるが、

友人の「これ、ETのまちがいだぜ。」

で助かる。

本当に危なかつた。

助かつた。

あのとき、私は神を信じた。

追いまじ「つゞ。

なし

スザンボイル（前書き）

なし

スーザンボイル

本当に。

本当に、本当に。

しつこいが本当に。

つらい戦いだつたが。

(特に英語。。。そこを強調)

何とか私は生き残り、

次へのスタートにつくことができた。

(内容は、高校ラブソティ 純情編

本編終了後着手予定。「期日未定」

もし、後日お見かけの時は読んでおくんなさい。)

さらに、私は幸運の青い鳥。

もとい、黄色いはんかち。

もとい、白い北野天満宮のお守りのおかげで

本当に最後は神頼みしか残されていなかつた。

父も、母も、お参りに行つてくれたらしい。

本当に、

本当に、本当に、

これで自分の人生。運を使い果たしたと

思った。

後で、

それがまちがいで

なかつたことが証明されるのだが。 。 。 。

それは、また別の話・・・・

さて、3月。

職員室でも話題の、奇跡の人。

時の人。

D高校のスーザンボイル。

祝 卒業。

いつして

私は

九死に一生を得て、

ばかだ大学に合格することとなつたのである。

桜がその年はやけにきれいな、春3月であった。

スーザンボイル（後書き）

なし

なし

海辺の街

きつよくの時を回つて
新しい章に突入できそうだ。

大学は、海辺の街だつた。

それでも

圈のはずれだ。

なんでもその大学は、

はじめは都会から離れ、

心をきれいにし、

野に抱かれ、自然を愛し、

そして、あるとこりで

都心につつむらじー。

何を心配しているのだひづ。

しかしながら、私は金銭面で

助かつたと思づ。

そして、自分のあか抜けなさからも

よかつたと思ひ。

とにかくにも海ははじめてだった。

穏やかな海。

たおやかな海。

誰かと行くのだろうか。

そんな事を流れゆく

電車の窓から考えた。

そして、

まつたぐ。

海を見て、

山をへりこいたけ。

とってもめずらしかったけ。

言つてさうになつた。

本当に田舎者であった。

部屋の真ん中に座る。

空虚な時間が流れる。

何もない。

夕方の赤い日がかかる。

暗くなる前に

出かけた。

角をまがったすぐに

全国チーンのCMでおなじみの

「ンビリ」があった。

近い。

迷わず入る。

学生街か。

集つている。

そして、

夜

一人で

がらんとした部屋で

350のビールを飲んだ。

コンビニで未成年ですか。

と聞かれたらまずいと

思ったが、

そこの中で

学生が飲んでるのか。

何も聞かれなかつた。

はじめての飲酒。

一口飲む。

心底。

苦かつた。

今の自分を指しているのか。

学校で

あれだけ、

皆が

騒いでいた。

泡の出るジュース。

まずかつた。

氣がしれなかつた。

泣けてきた。

(テレビは欲しいと。。。。)

なし

ダチヨウ俱乐部（前書き）

なし

ダチョウ俱乐部

そして

自分でわからなかつたが

なんだか落ち着かない

華やかな雰囲気だからか

なぜだ

女子が多いからか

全体の4分の1しか男子がない

聞いていない

(ダチョウ俱乐部か)

(いやかえつてダチョウ俱乐部くらいの
明るさならよいが・・・)

氣が重い

ばんがらな自分には合わないと

思った。

男子高出身者には

つらい

また

慣れていないからだと
思つ

チャラチャラ系男子も
多い

そのようなところが
とにかく多い

ぱあっと盛り上がっている

それで全てかと思つが

沈んだところも

つらい

テンションのやたらと
高いじゅしーには

田のやり場に困るし

愛想笑いも疲れる

そして

一步間違つと

怪しい人

左右に座るのも
もちろん
じょつしー

氣疲れ

椅子の左右の肘当て?
も考え方の

どーんと座りたい。

式が始まつて

何人目か、

何人か忘れたくらいの来賓の挨拶時。

突然。

春休み

暇でみたCSの

健さんを思い出した。

男はだまつて。。。。

自分にもあの生き方が出来るのだろうか。

世界が違います

ダチョウ俱乐部（後書き）

なし

21話の後に読んでください　おハイソ（前書き）

なし

21話の後に読んでください　おハイソ

インターネット接続トラブルによる
21話の後のこじらりが22話です。

22話は、23話になります。
訂正いたします。
重ねてすみません。

上京してしまひく、

入学式があつた。

ややハイソな感じのする

自分に似つかない

テレビ的な

学校だと思った。

おしゃれだ。

ただ、沿道の桜はきれいだつた。

校舎か。

本当に綺麗だつた。

満開が過ぎ、

散りゆく景色が

心を揺さぶった。

予備校に通うA。

家業を継いだS。

敗者の弁か。

自分は

よくまあ、上京できたものだと、

金錢面を含めて、おふくろに感謝した。

そして、

驚くべきことに、

当時、別なおふくろさんも世間を

にぎわせていた。

ぼつを持った人の家が、

自分の家におもかげが似ていた。

落ち着かない学食のテレビで、

見た。

視線に困つてテレビなのか。

そんなことを覚えている。

式には、

母は、上京はしなかつた。

同じく無骨な父も。

同じだつた。

式では父兄の姿が目立つた。

ブランドがわからない私にも

一見で高いとわかつた。

自分は、量販店で買った。

恥じてはいない。

ネクタイも

結べず、

小一時間苦戦した。

21話の後に読んでください　おハイソ（後書き）

なし

トンネルを抜けると・・・（前書き）

なし

トンネルを抜けると

トンネルを抜けると

雪国だった。

遠いどこかで

誰かが言っていた。

その静寂とは別に

とても

ざわついている。

いや

浮かれた雰囲気だ。

乙県の県境まで行くらしい。

山

また

山の感じがする。

さすがに高速なので、

風情は遠い。

すうすうと流れる感じがある。

バスは何台も連なっているそうだ。

私は、

やや寝坊し、

本当は

行かなくともいいか

と考えた。

しかし

学生課の職員に

行かない者は

「お尋ねものになる」

「私の言つことを聞きなさい」

30代後半 女性職員

みつこ
に言われ

やや高圧的

いやかなり高圧的

といふか脅迫か・・・

最後まで抵抗したが

名簿に

一つだけ

見事にぼっかり

空いている空欄に

をつけさせられた。

トンネルを抜けると・・・（後書き）

なし

類のやう。。。（前書き）

なし

君の名は。。

大学を続けるか。
それとも。

それが踏み絵らしい。

担当教官への

学生のお披露目もあるので

絶対の参加

服従？

だそうだ

大学は自由な思想?
ではなかつたのか。

そして

来ない者は

左遷！！！

村八分の

憂き田にあうらじい。

そういう流れ者に

憧れる自分が

こわい。

しかしながら

昨今の少子化

大学としても

いきなり

退学者を出すわけには

いかないと考へて いるらしい

・・・

それが踏み絵と説得か。

果てしなくだるさを感じる

話をだいぶ前に戻す

実は

入学式でシラバスという

電話帳かと

見違つ冊子を渡された

この帳面から

自分の

選択する単位教科を

選ぶらしい

調子のいいヤツは

そこから単位が簡単に取れるものを

入部しようとしている

いや
するのか

サークルの先輩から

聞き出すらしい

もちろん

私は

まだ開いていない

おそらく
はやかれ
また
みつこに呼び出される
であろう。

(もちろん
みつこは私が
勝手に付けた名前なので
本人の名を知らない。
君の名は。。。
どこかで聞いたフレーズだ。)

君の名は。。。 (後書き)

なし

偽善者（前書き）

なし

そんな私があるので

自分がどこに所属しているか
わからない

発車ぎりぎりの

バスで

多分

私がこないだらうで
いらっしゃく

学生課職員 よしおに

学籍番号を言へ

最後のバスであるこのバスに
よしおと共に乗り込んだ

いや押し込まれた。

本当に流れ者はいなかつたのか

あと少しで流れ者に

なれたかと思うと

また

健さんを思い出し

少し

涙ぐんだ

去る者は追わず。

後口談だが

去る者が若干名いたそうだ。

永遠にたどりつかない

尊敬。

さてそんな

私の氣持ちはおかまいなく

バスはどんどん進んでいく

はじめの頃こそ

携帯片手にペーぺー

頭をさげ

さも私は悪くないを

演じていたよしおも

快調にすすみ

先発隊に

近づくことを

確認できると

不機嫌さがなくなつたようだ

しかしながら

それに反比例しながら

私の心は沈んでいく

何年も前からの親友

みたいな顔で

座席でしゃべる

周りの人々

なぜか

最後尾が空いていて

本当によかつた

みんなの無言の
追い立てか。

一人だ

すがすがしさもあり

少しの寂しさも
あるが

氣疲れするよりは
ましか

どこでもいる

おせつかいな
ヤツが菓子を
まわしながら

情報収集にこないうちに

眠つてやううと

眼をとじた

幸い自分のアピールに

精一杯の人々だらけで

一握りの

偽善者もなく

平和に

私は

深い眠りにつくことができた。

偽善者（後書き）

なし

友だちへ（前書き）

なし

友だちのりこ

起きるとバスは止まっていた。

誰もいない

はつとあるが

どうやら休憩のよひだ

よしおのいびきが
最後尾まで聞こえてくる

みんな青空の下

湖畔で戯れている

遠くに名のある
山が見える

歓声をあげ

しきりにデジカメで
写真を撮る集団

お互に撮り合って

仲間意識を作っている

偽りの時間

友だち、この
はじまり

ふと見ると

それらの輪にそまらず

ベンチで座つて

はぐれでいるものをいる

何かのポーズか

誰も声をかけなくても

動じない

すがすがしさを感じる

一人を楽しんでいるのが
伝わる

すごい

感心した

誰も氣づかない

心の強い
芯がある

窓からじばし眺める

もしかしたら
観察していたのかも
しない

身長は高め175cmくらいか
もしかしたら180はあるか

すらりとした姿勢
優雅な横顔

知的なきれい
目鼻立ちはつきり

日本人でないような
感じもする

ハーフか

オーラがでるのではなく
自然な感じが素敵だ。

つかのま

ぼんやりしていると

時間なのか

三々五々

皆がバスに乗り込んでくる

何事もなく出発
私には何かあつた。

友だちひらく（後書き）

なし

合宿所（前書き）

なし

合宿所

研修所に到着した。

随分と時間がかかった

4時間弱か

夕焼けがまぶしい

そして

まだはやいが新緑の息吹を感じる

確實に空氣はおいしそうだ

真新しいうすいクリーム色の外壁

幾何学的な形の小窓

合宿所は

ちょっととしたしゃれたホテルの

ようだ

大学の持ち物らしい

先発のバス数台は

もう到着し

どんどん学生が入り口にすいこまれていく
砂糖に集まる蟻か

べつに私に砂糖はいらない

正面玄関で学籍番号を探す

学生課若手職員が教えてくれた

男子の数は少ないので2人部屋の個室だそうだ

一人を祈るがこれだけの人数 そうもいくまい

丘の地形をそのまま使っているからか
曲がりくねった廊下をすすむ

いくつかの棟の
つきあたりが私の部屋だった

せまいことを覚悟したが
外見だけで中は意外に広かつた

簡素な机が2つ

合宿は意外に

3泊4日も

あるのだ

学習会もある

相当、懇親を深めたいらしい

孤独からの自殺者を減らす目的か
考えすぎか

大きな窓

ベッドは2段になっている

本当に簡素な作りだ

相方は来ていない

このままこないことを

祈る

合宿所（後書き）

なし

ルビ(縦書き)

なし

どんぐり

そこへ

突然扉が開いた

物静かな

ややすんぐりなどんぐりが

いや

男が入ってきた

名乗りはしない・・・無言

まあ これくらい

静かな方がありがたい

きらりと笑いながら

よろしくとか

握手とかされたら
たまらない

こちから名乗る

普通の対応、

なぜ普通を装うのか。

悪い自分。

はじめからべたべたするわけではないが
二人で夕食会場に向かう

大きな食堂だ
まあ学食か

バイキング形式
すごい人だ

あの中に入るのはつらい

窓辺の席で待つことを
どんぐりに告げる

どんぐりは腹が減つてたまらないのか
さつせと躊躇せず進む

人を見るだけで疲れる

まわりを観察する
手詰まりで煙草が吸いたいところだが
もちろん灰皿はない

窓の外の暗闇を見る

真の闇
暗い

背の低い

薄暗い街灯に照らされて植え込みが見える
よく手入れされている

作られている世界

群がる人々

はざれるのは簡単そうだ

どんぐりを探そうとしたが
もちろん見あたらない

それにしてもあの人だからに
突進していく
どんぐりの勇氣
尊敬に値する

どうべつ（後書き）

なし

山盛つボトト（前書き）

なし

山盛りポート

ぽんやり探してみると
テーブルつくりに向ひ

あの湖畔の女性がいた
一人かと思いきや

ちゃきちゃきした小柄な
少女??が立ち回っている

かいがいしい

こちらには氣付いていない

それがいい
それがいい

どんぐりが戻ってきた

おぼんにたくさんのおかずを載せている

ちゃんと私の事を忘れずに
こちらに来る

律儀だ

なんだか食べるのだがどうでも

よくなつた

近づいてきて

どんどんぐり

いきなり山盛りポテトを
私に寄越す。

ケチャップのステイックもつけ。

取るのが好きだとなんとか言つて
これも食えと言つて

ケンタッキーのような若鶏もも肉も
ずらしてくる

悪い奴ではなれうだ

すごい勢いで食べて

また戻つていく

食事と真剣に向き合つている

私は一つか二つポテトに手をつけ

なんだかお腹がいっぱいになつた
気持ちよく食べるのを見ると

こちらまで十分な感じだ

今度はサラダとトマートを
持つてきた

マークだけ遠慮無く

いた
だ
く

山盛りポテト（後書き）

なし

//—テイキング（前書き）

なし

// ミーティング

人の出入りがあわただしい

うちから4・5テーブル向こうの

中央の通路を

黄色い歓声を

あげて通つていく

グループの多いこと。

この後

ミーティングとこづかの

顔合わせが

体育館であるらしき

文学部全体で

顔合わせとは

何人になるのだろうか

100は軽くいるだろ？

どんぐりが言つたのは

全学部は無理なので

いくつかの学部」と云

時期をずらして合宿するらしい

文学部、教育学部がつむぎのテーマならし

はじめて知った

といふか、学生課みつこ

言えよ

あんなにバスに乗つて

2学部とは

何が少子化だ。

ばか田大学のブランド恐るべし

どんぐりは続けて

工学部、経済学部なんたらかんたらと
学部を教えてくれたが
なんちゅう数の学部だ

啞然

学部にわけのわからん名前をつけないでほしい
純粹に研究したい

おまえが言うか

といふかそういう私も何を基準にこの大学を
選んだのか今さらながら意味不明

高校スーザンボイル事件

へたな鉄砲も数うちや当たるか

人生そんなに甘くないと
進路指導Tはしみじみ言つていたが

それこそ

沖縄でめんそーれか

北海道の北のはじか

そこまで考えれば

なんとか口もあつたらしいが

それとてさつこんの

夢見がちな学生によつてどんどん

漫食されはじめているらしい

よくまあこここまで

こられたな

それより体育館でじうするのか

学部対抗バスケ大会（笑）するのか

（せつぱり）あり得ない。

なし

禁煙（前書き）

なし

禁煙

よくまあ、あれだけ食べれるな。

といつほど食べ、

私が遠慮したポテトもたいらげ

「テレビで野球を観たい。」

どんぐりはそいつてどいにかに消えた

私も煙草が吸いたくなり

おもうとして

果たして吸えるかと考え

この人混みでさがすのも

おっくうになつた

バスではなんとなく

沈んだ心で健さんだったの

我慢できたが

いよいよ禁煙か高3の追い込み以来か

なにはともあれ、体育館の裏手でも

行ってみるか、どうせ集合場所だし

とこう軽い気持ちで

出かけた。

(ーーーーーこの思わぬ氣まぐれが
彼の人生を大きく惑わすとは・・・)

続く・・・

といふか、いつも続いてるやろ。・・・。

(そんなこんなで大型時代劇 もとい 青春群像活劇
風のグラスゴー・・・
まだまだ海外にはたゞりつきまくんで)

禁煙（後書き）

なし

なし

「よつし——。。。。

何を言つてゐるのかと

思つた

なぜ、わしの名を呼ぶ。

ていつか人違ひだけど。

もちろん。

そして、なんで人けのない

こんな体育館裏手で

誰かを呼ぶ。

逢い引きか（ふるつ）

こじらの周りは、背の低い街路灯はあるが

いかんせん灯りは暗い、かなり暗いと思う。

はじめは

勘違いしてゐるのだと思った。

ひからは、煙草を吸おうと思つたひ

まさかのオイル切れ

なんでもやねん。自分で自分にじづく

ところが、呼んでるのだれえってかんじ

まれに、任侠映画の「おどどっしゃ。どたま かちわるね。」
的状況。

よくわからない。

まだしつこく呼んでいる。

「よつしーーー。。。」

携帯で呼び出せよ。

あることは呼び出されたか。

さすがにこの闇におそれをなしたか、

呼んだはいいがこちらにこない。

ぞまあみろ。

誰に叫つていいかわからぬが。。。。

そんなふとした油断をけちりし

悪魔はやつられた。

ひめゆり。

はつかけられ。

わい、まつりや。

れいの食堂の。

ガシ———ン。

軽い脳しんとうを起じるが、ながい
いや起こしたのか。
倒れそうになる。

あの
小柄な少女。
いや、少女とは言えない。
うからと回り年だ。

なんであなたがこじこじの。 こいつ感じ。

やして、なんでハコアシトなの。

「ひ———。。。」 つて誰つて感じ。

泣く意識でやつ思つた。

そして、堤の上端にあの湖畔の女性がいた。

なし

幸せの黄色いハンカチ（前書き）

なし

幸せの黄色いハンカチ

氣が付くと

体育館の雨を打つ砂利

犬走りに寝ていた

どのくらい

寝ていたのだろう

遠くからざわめきが

それが

すぐ脇の体育館の外扉の中だと
わかるまで

数分

いやもつと短かったのか

ざわめきが大きく聞こえる

外扉を開ける

まぶしい

始まるところだつたらしい

扉を閉めてそこに佇む

とこうか氣を取り戻す

なんちゅう人の多さやねん

舞台で挨拶が始まつたらしげ

急速に馬鹿らしくなつてきた

そして体育館裏手にすゅうこーでもあるまいし
行つた自分が情けなくなつてきた

自分に嫌氣がさし

部屋に戻るべく入り口に向かう。
くだらない話はまだ続いている。

そして、そこに例によつて学生課よしおが待ちかまえている
そういうやつもよつし——か。

「ちよつと頭がいたくて」

よしおに言つ。

確かに倒れただけあつて顔が青かつたのだろう
何も言われず

行つてよしの片手ふり。

こいつは氣概なしと思われたか。

まあいつものことだ

部屋に戻る

後ろから、なにかアトラクションか
ゲームが始まったのか

大きな歓声がする。

やつぱり学部対抗バスケ大会
当たりか。

俺がいなくて、文学部は損したな。

幸せの黄色ハンカチの武田鉄矢のよう

捨てゼリふを吐く。
なぜか笑いがこみ上げてくる。

幸せの黄色いハンカチ（後書き）

なし

今までにない
人混み

そしてバスでの疲れもあって
横になつたとたん
眠つてしまつたらしい

ふと氣がつくと
時計は午前2時・・・

ここはどこ。一瞬。
どこにいるのかわからなかつたが
そうか合宿に来ていたことを
思い出した

毛布がかかっていた

どんぐりがかけてくれたらしい

氣遣いの男か

ジャージに着替えてベッドに入る
ドングリは仏様のように
安らかに眠つている

デブはいびき、偏見は崩れた。

・・・

少し眠れず

今日の出来事を反復する

なぜラリアットなのか

そこが一番だ。

いろいろ考えるが答えが見つからない

このまま眠れないか

羊でも数えるか

と思つていたら

寝てしまつたらしい。

カーテン越しの

やわらかい日差しで目覚める

嘘ではない純な鳥の声が、まぶしい

もう片側の壁側のベッドの

どんぐりがない

カーテンを開ける。

新緑になりかけた木々の新芽がまぶしい

窓からは見渡す限り森しか見えない

森の合間を建物が見え

それらをつなぐ廊下が延びている

森にあつて調和がとれてい
なんと広い合宿所だ

昨日はわからなかつたが
大きな山が正面に見える
ここはその中腹だったのか

静かに椅子に座り

朝のすがすがしさを味わう

海辺のカフカで

あの街も

すがすがしさもあるが

やはり広大な森林にはかなわない

コーヒーがあればいいな

白いスマートな帽子が

入ってきた

誰かと思つたらどんぐりだつた
なんとも洒落た格好をしている

良家の子息か

格好を褒めると笑いながら

量販店のジャージだとたまう

時代は変わったか

そういうやいつも体育は

小豆色の高ジヤー

寝間着のジャージも

お袋が買つてくれたまあ普通のやつ

自分に合っているかはわからないが
悪くもない

何処に行つてたか尋ねると
ジョギングしていたらしい
見ればジャージが汗ばんでいる
動けるデブか

どのくらい走ったのか聞くと
3・40分くらいだそうだ

普通という

ハーフマラソンに前から挑戦しているらしい
なんじやそりやあ

松田勇作 台詞が違う

恐るべし

爽やかとしか言えない健康的デブ
繰り返すがデブの範疇を超えている
超人デブか

松田勇作（後書き）

なし

青に由（前書き）

なし

青い缶

手に何か持っている
青い缶

「コーヒーだ

無言で私に投げてくる

さすがどんどんぐり
気遣いの男

温かいのがよかつたが

贅沢は言えまい

飲みながらこじらの自然の素晴らしい景色を聞く

嫌みに言わないのが氣にいった
自分も走ったような錯覚
やってみようかとも思った
タバコ吸いにはまあ無理だろうが

昨日の様子をどんどんぐりに聞く

体育館にパイプ椅子が並べられて
合宿のオリエンテーションだったらしい

そういうコアクトが効いていたらしい

パイプ椅子など氣づかなかつた

文学部の半分と、教育学部の半分ずつが
この合宿で集められたそうだ

あれで半分ずつとは、なんちゅう大学だ

青に缶（後書き）

なし

洋なし（前書き）

なし

洋なし

昨日の様子をじんぐりに聞く

体育館前方

ステージ前に整然と
パイプ椅子が並べられ

いやはや

そうとうラコアットが効いていたらしい
パイプ椅子など氣づかなかつた

世に恐るしや

部屋割りどおりに
パイプ椅子の背に
番号が振つてあつたらしい

うちらは囚人か

そこまで管理するか
あざとい。

せうに言つなら

部屋割りは学籍順らしく
私の学籍は042474

これもおもしろくて
思い返せば

カードをもらつた時

一瞬

世に用無し（洋なしでもよかつたが）と読め

史学、年表覚え過ぎ、

そんな読み方をする自分の
あまりのばかりじさに笑つたが

どんぐりは、042502

その差、28名

男子は極端に少ないので

ご縁というわけか。

そりやあそだわ、男子と女子を一緒に部屋に
するわけにやあいかないし（笑）

そうして

そうやって誰がいないか監視しているのだとか
ばからし。

でもそんな逃げだす度胸のある奴なんていらないんだね

なにしろ座席は、みんなうまつて。

どんぐりの隣だけポツンと空いていた。

そうだ

かえつてどんぐりが恐縮したらしい。

大笑い。なんてつたつて。

私は、よつしーーーに許可もらつたかんな。
意外に役立つな、よつしーーー。

さてさて内容は、合宿のオリエンテーションだつたらしい

文学部の半分と、教育学部の半分ずつが
この合宿で集められたそうだ。

それにしても

あれで半分ずつとは、なんちゅう大学だ。

人の集めすぎ

しかしそうでもしないと

経営が成り立たないのである

洋なし（後書き）

なし

お代官様（前書き）

なし

お代官様

内容は前に入学オリエンテーションで説明された話をなぞる話が多かつたそつだ

入学オリエンテーション

初耳だ

参加していないもの

若干一名

どんぐりやや驚くが

そこでとばかりに

メモを見ながら丁寧に教えてくれる

学生課の説明はまどろっこしそうだから
いかなくて正解か

1年次は教養講座。

2年次でゼミに入部すること

教養の単位はざつと以下のようなものがあること。

倫理学、法律学、法律概論、経済学、地理学、史学、哲学、
言語学、化学、環境、情報、情報科学、自然学、書道、
芸術、美術史概論、自然科学、数学、英語、ドイツ語、
フランス語、スペイン語、中国語、そして体育。

つていうか体育まであるのか。

さらにもまだあるらしいが一般的なものを

教えてくれた

そして、外国語は、複数選択なので要注意とのこと。

2年次からは、ゼミや専門教科が始まるので
1年で習得するのが望ましいこと。

合宿最後の日までに、マークシート式のシラバスを提出すること

そう言って緑色のセンター試験の時にお目にかかったような
紙をひらひらさせる

なんと2枚もらってきててくれている

さすがに健さんも授業にいかないと
放浪の寅さんになってしまふ

どんぐりとも

何かの縁。

腹を決めて

どんぐりに教えを請おう

しかしながら

なんのことない、

要は、シラバスの回収と仲間作りか

大学もよく考えたものだ

そんな奴らの思うつぼも癪だが

まあ、説明会に行かなくてもシラバスを出す
ことでキャラとするか

何をやつても平均点以上
どんぐりは説明もうまい
学生課でもやつていけそうだ
よつしーー。の小狡い顔が浮かぶ

どんぐりに聞いてみる

もし教養がうまくいかなかつたら
留年になるのか

それはない。
どんぐりは即決
そりやあよかつた

2年次、自分の希望学科に不利になるのか
という質問は、

したりという顔をして
いい質問です。
と言わんばかりに

そこは質問が集中し
皆の関心があつたそつだ

ただ、学生課は一言。

自分の希望学科に不利になるかは、
ないことはない。

追つて沙汰する

代官様か

あくまでもお上だ

理路整然系学生が、説明を
求めるが

質問は打ち切られ
そこでオリエンテーションは終了
したそうだ

秘密かい。

お代官様（後書き）

なし

赤こ／＼一のしきしき（繪書也）

なし

赤いリードのじゅしゅ

どんぐり。

帰り際おもじゅごじがあつたそつだ

19時からの説明会
教授の挨拶も長かったが
学生課の合宿諸注意といつながなが
くどい説明もあって
要は、はじめをはずすなどいづお達し。
終わったのは21時半過ぎ
どんぐりに悪いが
いやあ出なくてよかつた

くたくたで足取りも重く帰る際
肩をたたかれたそうだ
出口で張つてたんだうつ

身長160cmくらい

小柄

ボーアッシュュな髪型

赤いミニーのしゅしゅ

ジーパンのポケットから

ミッキーのストラップがじゅじゅじゅ

女子

しつかし、どんぐりよく観察してゐるよ
シャーロックホームズ
何やつてもそつがない

そして

相棒はどうしたと聞かれたそうだ。

伝言として

「明日、朝食会場で待つ。」

「場所は、夕飯食べた場所と同じ所に座るとのこと。」

言つとすたすと行つてしまつたそうだ。

後ろに、背の高い170cmくらい

モデル系

ハーフ美人

風と共に去りぬのスカーレット・オハラに似ている

服装は地味。Gパンにトレーナーさすがシャーロック。

赤いミニーのしゅしゅ

なにかピンとくるものがある

ラリアットの時

スローでよみがえる

髪の束の振り向きさま

はっしゃきだ！――！

赤いマークのじゅしゅ（後書き）

なし

吹奏樂部定演～祝40話～（前書き）

なし

吹奏楽部定期演祝 40話

はて、どうして
どんぐりがわかつたのか

どんぐりに尋ねると

何度も休憩があつて携帯をいじつていたら

何度もその女性のような人を見かけたそうだ

よくもまあ、広い会場を
何人いたんだろう
探したんだろうな
向こうとしても
ラリアットくらつてどうなったか
心配だつたんだろうし

そして次に
風と共に去りぬを懸命に
思い出す

そういうや

高3の夏。

無理矢理買わされた

吹奏楽部の定期演のチケット

確か

パンフの表紙がそれのぱくりじゃなかつたか
思い出せない

困っている私を見て、どんぐり
携帯をいじって検索
オハラを出してくれる

あああの顔か
合点がいった

ヴィヴィアン・リーだ

そして

もしかして
湖畔の女性が閃いた
いわくを感じる

時計を見ると、7時とすこし

朝食は昨日と同じ場所

7時から8時半までとのこと

慌てて着替える

どんぐりは

シャワー室に行つてシャワーを浴びるとのこと
すまない、長い話につきあつてくれて

氣はすすまないが

食堂の夕食の窓辺の座席で

落ち合つことを約束 わかれる

吹奏樂部定演～祝40話～（後書き）

なし

風と井のわづな（繪書き）

なし

風と共に去りぬ

どんぐりが出て行った後
急速に行くのがめんどくさくなる

逃げているのか

7時半になつたが行く氣がおこらない
遅かれ早かれ。
つぶやくようにして部屋を出る

食堂を待つ列が続いている
10分待ちか

座席などないだらう
部屋に戻ろうとくるつと回れ右したといふ
突然。
後ろ手に襟をつかまれ
食堂に引っ張つていかかる

ちらつと見えた
色は違うが、ミニーのしゅしゅ
今日は縁だ。
殺氣だつた様子に。
何事という感じで長い列が脇によけられる

そのまま窓辺の座席に

どんぐりが恐縮している

問い合わせられていたのだろう

シャワーを浴びてさっぱりしたのに

申し訳ない、片手で拭む

やはり、はつちやまだ

そしていきなり

「謝れ」と言つ

なんのことか

続けて

「ストーカー」

と言つ

単語のみでしゃべるので
よくわからない

見れば

ああ、湖畔の女性がいた

なんでわたしがストーカーなのか

聞けばバスの窓から私をずっと見ていたとのこと

自由さにすがすがしさを感じていた
と思っていたが

殺氣を感じていたか

確かに

遅刻はする、怪しい風体だ
つるまない

最後部で一人きり

あやしい

怖がるもの無理はない

いつも「」と「」をこねます。

風と共に去りぬ（後書き）

なし

小心者ー市民（前書き）

なし

小心者の一市民

いきなり話が重くなるのも

なんなんので

縁がきれいで、空氣がうまいですねえ。

タバコもうまいですよ。

あはははああ。

と、のたまう。

タバコを出して

吸おうとしたが

もうひん灰皿はない。

自分のキャラと全く逆。

入学式チャラ男系をしてみたが
逆にひかれた。

どんびき。

まあ、そりやそうだ。

「何でラリアットしたんだ。」

いきなり核心にふれた。

思い切って尋ねてみると

「痛かつたぞう。」ややおどほけも加え
顔もしかめてみる。

無言。

相当悪いことをしたのか私。

小心者の一市民なのですが・・・

オハラがしゃべり出す

「なぜ、私を見ていたのですか？」

どきりとするが

正直に話す。

輪にそまらず

ベンチで座つていてすごいと思ったこと

誰にも声をかけられなくとも動じないことに

すがすがしさを感じたこと

誰かとつるんでいなといけない学生生活
うわべだけの友だち

本音のない関係

自分は疲れていたと伝える

そこに

一人を楽しんではいるのが伝わり
すごいと感心した

自分にはできないと思つたこと

彼女は心が強く、芯があると思ったことを話す。

オハラが語り出す

「実は私、いじめに遭つていたんです。」

小心者の一市民（後書き）

なし

なし

//ミッション系の高校

彼女は、
父、母とともに
フランスに住んでいた。

父は、
一時期名を馳せた
世界的に有名な証券会社に勤務し
ロンドンに継ぐ、ヨーロッパの
砦としてその仕事は多忙を極めていた

そんな多忙な会社に嫌気がさし
会社が無くなる前に
父が転職したのは
先見の明があつたとしかいえない

母は日本人で
何年もの外国暮らしへひどく
日本に帰りたかったこともあつたらしい

こうして家族は
彼女が高校2年生の初秋
日本に来た
彼女にとつて
里帰りで何度も日本を訪れていたが
暮らすのは初めての土地であつた

父は、その温厚な人柄と

人脈の広さで

すぐ横浜の貿易会社に勤めることになった
友人がいて一緒に働くかないと
誘つてくれた事が大きかつたらしい

父は素振りは見せなかつたが
母のためとはいえ、

後先考えずに会社をやめたので
今後の人生に一抹の不安も

あつたらしい

フランス人らしくない
保守的な考え方もある

友人の貿易会社は

小さいながらも家族的な雰囲気で
やめた会社と比較しても
しううがないが

そこがひどく氣にいつたらしい
今も、フランスと日本を行つたり来たりしながら
仕事を手伝つてゐるそうだ

さて、母は

日本に戻つても相変わらず

専業主婦で

優しく、夫と娘を見守つていた

母が一番心配したのは

娘の教育で

とかく日本は帰国子女に冷たい

ことを彼女は

長年の外国暮らしで知り得てあり

日本の役所の

縦割りでもあり

建前主義でもある

ところも

彼女自身の手続きとつてもみても
十分おつりがくるくらい
身にしみてわかつていた

そして

実際のところ

子女には日本はあたたかく
なかつた

やはり

先を見越して
小さい頃から

日本語を丁寧に教え

読み書きを特訓していたが

この日に備えてきた

甲斐があつたと思う

また、フランスで通っていた高校も
よかつた

それは日本のいくつかの
ミッション系の学校と
姉妹校を結んでいたからだ

ほどなく

F女子大付属の高校に
編入することができた

繰り返すが彼女が

高校2年の初秋9月であった

なし

野バラ（前書き）

なし

野バラ

街としては
大きすぎ
高層の建物が多いが
そこはかつて
避暑でよく何週間も滞在した
ニースに似ていた

坂や意外に多い緑が
そういうわせたのか
しれない

坂をのぼると
教会が見える

わざわざ

出迎えてくれた理事長は
まさにシスターであり
フランスから
異国之地
日本に来た
彼女に優しかった

学校は伝統ある
お嬢様学校であった
その進学先は有名な
Tをはじめ、K、A、J大など
幅広かつた

普通科2年に編入され
彼女の新たな高校生活がスタートした

さすがに何回も

外国からの

転人生がきており

珍しくないのか

帰国子女のオハラは

すぐに

とけ込むことができた

が

やはり母仕込みの

ジャパニーズが

ものをいつたらしい

まわりを取り巻く友人は
一様にフランスでの生活を

聞きたがつた

彼女はきわめて

丁寧にかつ親切に一人一人に
応対した

全くえらぶるところはなかつた

夏の入道雲 猛暑がさり

残暑とよばれる暑さが

続き

季節は秋になろうとしていた

その日

いつもどおりに

彼女は登校した

残暑ながらも

過ごしやすい季節になってきた

朝、いつものように
グッドモーニングと

言つて教室に入室する

が

その日に限つて
彼女の周りには

いつもの友だちはこない
軽い違和感を感じながらも
いつも通りに授業をうけた
しかし

休み時間は2、3人の子が
話に来てくれて
自分の心配は杞憂かと
思った

ところが朝は

次の日も同じであった

そして

休み時間は

誰も話しかけてこなくなつた
こちらから話にゆくと
なんとなくさけられている
感じがした

ある日の音楽の時間

わらべは〜みいたあり〜

のなかのばあらあ～

宝塚のような

かといつてどこか懐かしい

歌を歌い終え

みんなが教室を出ていった後

オハラは女教師に

呼び止められた

音楽教師は若い臨時の先生で
外国での留学経験があるらしく
なぜかとても氣さくな女の先生だった
何度も彼女と話をしたことがあったが
呼び止められたのは
はじめてだった

彼女は誰もいなくなると

こう言った

「野バラよ」

「野バラには氣をつけなさい」

その事をつたえると

何事もなかつたよう

彼女は準備室に去つた

まだ

その意味が彼女にはわからなかつた

野バラ（後書き）

なし

なし

百合様

あいもかわらずの毎日だったが
オハラは学校に休まず登校した

そして

休みをはさんで次の週
オハラが転入してからずつと
空いていた席に人だかりが
できていた

いつものように

オハラが

転入してからずつと

欠かさずしてきた挨拶。

誰も返す者がいなくても

する挨拶

グッドモーニングと

言つて教室に入る

突然

その人だかりの中心の

小柄な女性が

オハラに駆け寄つてくる

グッドモーニング。

ニコッと笑う笑顔が

人なつっこい

オハラは思わず泣きそうになってしまった

何日ぶりに

挨拶をしてもらつたのだろう

思わずハグをする

その瞬間

教室の空気が
止まつた

その異様な雰囲気に
すぐに
ぴーんとくるものが
あつたらしい

髪の毛もまだぼさの彼女は

窓際に佇む一人の生徒に向かう
それは学級で
いつも上品で優雅な
感じを漂わせ
みんなが百合様と呼ぶ
女性であつた

また、おめえ
やつちよるのか。

一瞬なんの言葉だか
わからなかつた

百合様は

優雅に笑うだけであつた
なぜかその時だけは
取り巻きを感じた

場にそぐわない
爽やかなチャイムがなり
廊下のざわめきが聞こえる
担任が来るのであろう

百合様のまわりにできそつに
なった輪が
自然にくずれる

しばらくすると
臨時音楽教師が入ってきた
何事だろつか

百合様（後書き）

なし

なし

「はーい席について」

とても元氣がいい明るい女性だ

「あらっ、戻ってたのね。」

そういうて

例の助けてくれた女の子と

握手する

自然な感じだ

「おはよう。担任は急な出張で
出かけてるので私が来ました」

あいかわらず明るい

担任の出張がこうもうれしい人も
いるまい

何氣をよそおつて

窓側の百合様を見る

知らなかつた・・・

優雅であるはずの彼女が
ひどく憎々しい顔をしている

やはりそういう

くやしかつたのだろう

彼女が

俗に言う

裏ボスだったのだろう

まったくわからなかつた

それにして
女教師の明るいこと
私の事をわかつていいような
はしゃぎようだ
この人も道化だ

聞けば

ボーアイシュの彼女は
下町に長く続く花火師の家に生まれ
(あの界隈の元締めをしているらしい)
(元締めが何かはあとでマフィアと母に教わった)
そして、夏から秋の始めまで
全国を花火巡業し、帰ってきたらしい

もちろん高校には
大将自らお願ひにあがり。

シスターもその下町、江戸っ子魂に
フランスの友愛を重ね、
いたく氣にいつているらしい
また、休むことについても
後で、補習を受けることを理由に
2学期始めの2週間休むことを
許可しているらしい。

しかしながら

そんな彼女も男手一つで
育てられ

物心ついた時には・・・

お母さんは、体が弱く
亡くなってしまったそ�だ

まつたく

彼女と、

彼女の育った環境は

ここでは正反対であるが
彼女のお母さんが
ここに出身ということで
彼女は自ら決心して

入学したらしい

おやじに言わせれば

死んだものに遠慮するこたがない
おまえはおまえなんだから
好きに生きるがよい
と何度も何度も諭したらしげ
父親譲りの

一度こうと決めたら

貫く性質

勝手に試験を受けて入学して
しまつたらしい

まあ彼女らしい

裏ボス（後書き）

なし

ヒカルの暮（前書き）

なし

ヒカルの暮

「今までオハラは一息に話す
はつちやきは
ぼりぼりと頭をかく
真面目に語られすぎて
恥ずかしかったのか
飲み物を取りに行くと

一言

どんぐりを見れば
いつのまに
そんなに食べたのか
皿がつみあがつていた
私にまたポテトをすすめてくる

彼女の半世紀をみた心境
頑張つたと
声をかけたい
衝動にかられるが

会つてばかりの男に
そんなこと
とも考え
言葉を飲み込む

飲み込んだ言葉に詰まりながらも
どうしたらしいものか
氣まずい時間が過ぎる

こんな時こそ

氣のきいた事を言えばいいのに

どんぐり

ポテトを食べている

期待した私がばかだつた

どんだけ

ポテトが好きなんだ

周りを見ると

なんだかひどけがさびしい

時計を見ると8時45分

もうすぐ、学部」との

オリエンテーションが始まる時間だ。

聞けば、全員文学部とのこと

なんのことはない。

同じ穴の貉だ。

教育学部は、講堂で、

文学部は、昨日の体育館らしい。

どうせまた、

しけた学生課の見張り付き

だろうて

昼食時に会うこと約束する

心なしか

オハラがホツしているよつたな感じもある
氣のせいか

誰にも言えなかつたことを

初対面にいつのも

なんだが

それだからこそその
ものもあるのか

まだ残るポテトに未練を残す
どんぐりを

追い立て

体育館に向かう

予想はしていたが
つまらない

なんでこんなつまらないのか

文学部がいかに素晴らしいかの

次から次への名だたる先生の

演説

本当にあぐびができるくらい

素晴らしい

思いつきり

伸びをしながら

あぐびをすると

よつしーーーの視線が痛い

完全にマークされているようだ

わしは問題児か
何もしとらん

どんぐりを見ると
深く考え込み
神妙にメモを取り
聞いている

あきれた

どんぐりも俗にまみれた。

まあ所詮、人の子。
一氣に軽蔑・・・

と

メモの手元を見る
おいおい
いつ用意したのか

よく見る

新聞朝刊の
「次の一手」の切り抜き
さらに白コピーデ

ほかの書類と区別がつかない
さすが

時間の使い方を知っている

ここまでやるとは

恐れ入った

まさにヒカルの暮。

ヒカルの暮（後書き）

なし

オリエンテーション（前書き）

なし

オリエンテーリング

苦行の時間は終了した。

午後は、 大自然を感じてほしい。
とのことで、 な・ぜ・か
オリエンテーリングをやるそう

オリエンテーリングとは、
敷地の中に
アルファベットの文字が
書かれた看板があり
それを探すこと
見つけずらい場所は
もちろん点数も高い

これは、 何人脱走するか。
「アトラス島からの脱出」
サンフランシスコ沖の島だ。
いつかロブスターを食べながら
見てみたい
を思い出した。

なかなか粹な計らいだ。
部屋で寝てるか。

さらに説明は続く。

4人のチームでやるそうだ

ますます

大自然の中で、学生課が

どのように監視に腕を發揮するのか

大いに期待するところだが

例によつて

背番号順か？

期待を裏切り

なんと

チームは自由申告制。

誰と組んでもかまわないと
スタートで申告すること。

そして、

ある程度の点数以上にいかないと
夕飯の食材がもらえないらしい。

えつ。

夕飯の食材。

夜は自炊か。

ここまできて、カレー作りとは
下手な臨海学校だ。

というか

山だから臨山学校か。聞いたことがない。

それにも

なんちゅうゲームだ。

なになに

これで協調性、集団性、

体力、氣力、根性を見るのこと

体力、氣力、根性
どつかで聞いた台詞だが
まさか大学で試すとは

これで、急け度でも見るのか
それなら早々に白旗です

開始時間は1・3時半。

グランド集合だそうだ。

話だけで疲れてしまった。

込むといやなので、

どんぐりは食べる氣まんまんで

話終了とともに

食堂へ

さすが動けるテープは違ひ。

さつそく、

ポテトをコーヒーを

どんぐりにお願いする。

さつき軽蔑しそうになっていたのに
持つべきものは
友だちだ。

にやつとしたところへ

。あへへ いまひんじさう
せめき せめき

オリエンテーリング（後書き）

なし

第一關門 草食系（前書き）

なし

第一関門 草食系

満面の笑顔ではつむやせ。

開口一番。

一緒に組もうか。

やはり、そこか。

グランジの申告だけ居て
あとはバックれるか。

素早く脳裏にずるい考えがよぎる。

それにもしても

ここまで落ちぶれたか。

そつとオハラの顔色をうかがう

はつちやきにまかせれば

大丈夫といつ

顔をしている

信頼関係はあつねつだ。

それにもしても、

学生課も考えたものだ、

4人チームができるかどうかで

すでに第一関門。

この昼食時間が鍵となる。

男女混合チームとする」と、
など

しきたお題をだされなくてよかったです。

まあ、断るのも

おつだが

じこじま、騙されてやれり。

騙されるのも時間の問題か・・・

後は、氣のいい

どんぐりがうまくせつてくれるだらう。

本当にマラソンが役に立った、

後で周辺の地理を聞こづ。

なんだかウキウキする自分が怖い。

今日は食べれそうな氣がする。

そして、もしや

夜が食べれないかもしないので
しっかり昼食を食べることにする。

メニューは、

とこりかバイキングなので

自分で選んで

といふか

並んでいない場所のみ。

シチューとパン。

唐揚げ。

おこちやまか。

といふか、夜カレーなのにシチューを
とるあなたはいったい。

しかしながら、シチューの中にクレソンの
細かいのが入つていておいしい。
パンも自家製のようだ。

なかなかやるな、B大。

どんぐりもおかわりするわけだ。

いつのまにか、
うちらのテーブルに、はぢやきと
当然のようにオハラがいる。

朝の事は何だつたんだろ'つ。
わしはストーカーかい。
容疑は晴れたのか？？？

他のテーブルは、ナンパ合戦か。
少ない男子に女子からのお誘い。
アタックが集中。
うちらは先約すみ。
売約済みか。

草食系。

もとい、がつつい女子か。

それにしても氣の弱そうな男子が多い。
入学式のはつちやき系はあまり見あたらない。

性格テストで、学部を半々にわけたか。
学生課ならやつそうだ。

みんなで食べ

私も食べているので

どんぐりは特に機嫌がいい。

食事は大勢で食べるのがいいね
と喜んでいる。

そんなに食べて大丈夫かといつぐら
い ポテトに大盛り

私にも食べるか聞いてくる。
みているだけでお腹いっぱい

さらに、かいがいしく

コーヒー やお茶を運んでくる
いがいにはつちやきは
日本茶派のようだ

みんなで安堵したといひで

じやあ着替えてくるわ。

と

言い残し

女子一人は去つていった

といひか

うちらと組むかどつかのこちらから
返事はしていない・・
恐るべし女子パワー。

さらばにどづして

着替える必要があるのか

そのままで

いいのに・・・
理解に苦しむ。

どんぐりに聞くと
いろいろあるんじゃないの
とのこと

何がいろいろなのか。

そんなこんなでうちも部屋で
横になるべく戻る

おやじかい。

第一関門 草食系（後書き）

なし

山ガールズ やつたね 祝 50話（前書き）

なし

山ガールズ やつたね 祝 50話

誰かに激しく起こされる。
横になつたら眠つてしまつた。
どんぐりさすがだ。

まあ、このまま眠りについても
よかつたが・・・

高3の時、

パチンコの田のお楽しみ抽選会で
もらつたやくざな金時計をみる
もちろん金メツキ。

あらり

時間があと5分しかない。

それより、どんぐり
なんちゅう、格好だ。

ジヨギング、マラソンではなく。
それは、アウトドアか、
そのポケットがいっぱいのベストは何。

釣りのライフジャケットのようだ。

本人は、そのポケットの道具を
解説したいらしいが
時間を理由にバスをした。

まあ、はつちやきあたりに
説明すれば彼も満足だろう。

さすが、どんぐり

裏出口から出る。

見れば、グランドは宿舎斜面を
下つたすぐだ。

それにも

山の中腹だけあって斜度がきつい。

人が蟻のように群がっている。
あの白いてんどが受付か。

みれば、何組かの人だかりは、
森の方に向かっている。

13時30分になつたか。
裏口を通らなかつたらもつと
時間がかかつたことだろう。
どんぐりに感謝だ。

あのベストはいただけないが・・

それにしてもうすごい人だ。
オハラを見つけるか。
またまた例の虫が騒ぎ出す。
どうする。やめるか。
急速にめんどくなつた。

他の女子もこちらを見てそわそわしている。
まだ、メンバーを見つけられないのか。

なぜ、男子を誘う。

近くを突然。

大音量で

「ゴッドファーザーのテーマが。

驚く。

携帯か。

どんぐり、なんちゅう着信音よ。

あんたはマフィアか。

イタリアか。シチリアか。

そんなことおかまいなく。

もしもし、ああこいつちこいつと
手を振つている。

おこおいどんぐり

いつの間に

はつかけきと

番号交換したの？

よくわからない。

「おやい」

はつかけきの一言。

この人はしゃべらないが重みがある。

服を見て驚いた。

そんな服があるんだね。

スカートみたいな
ジャージをはいている。

どんぐり曰く、山ガールズらしい。
それは、何。何かのグループ。

ぽかんとしていると

笑いながらはつちやきが、
山に上るのがはやつてるんだよ。
と、ばかにしたように言つ。
褒めてもらいたかったのか。
理解に苦しむ。

こつちだつて、釣りのベストだぞ。
と言いたかつたが

そこはいじらないらしい。

オハラも、スポーツ系のジャージだ。
ウインドブレーカーも
爽やかな感じ。
スタイルがいいのによく似合つ。

少しひざまぎした。

学生課に受付に行く。

あらかた出発したらしい。

よつしーーがいる。

言葉は出さないが、

よく相方見つけたな。

チエツ。第一関門クリアかよ。

という態度。

わかりやすい。

地図をもらつて森に向かう。

新緑の芽。そして、日差しがまぶしい。

気持ちがいい。

思わず笑みがこぼれる。

それを見てオハラも微笑む。

なんですよ。

地図を真剣にみながら
どんぐり

さつそく七つ道具の登場。
すごい。

コンパスを持つている。

ブルーの長方形の青い枠の中に
方位磁針が入つていて
道具はセンスいいね。

といふか初步的に
コンパスなしで
山に行かせるのか

鬼だ

遭難者出るぞ

地図には確かに北を指す
矢印が書いてある
これはもうったか。

山ガールズ やつたね 祝 50話（後書き）

なし

ゴール目前（前書き）

なし

ホール目前

といひが、歩き始めて
しばらくして
はつひやきが何か騒ぎ出す

どんぐりの道が違うと囁う
私はどっちの言い分が正しいかわからぬ
どんぐりは自分は正しいと囁いてゆずらない
どんぐりが正しいのか

そこで一言

あそこで休みましょう
オハラが東屋を指さす
おお、あんなところに
はやくも仲間割れ。
万事休す。
いや休憩か。

まあ、ひとまず休んでから考えることにして
休憩することにする。
はつちやせどどんぐりが持論を戦わせてくる。
ゆっくり、ベンチに横になる。
ふと天井を見る

何かつり下がつている。
赤と白で半分ずつ。

もしかして

あつたああああ。

我ながら恥ずかしいくらい大きな声を
出してしまった。

みんなビックリする。

周りに他のチームがいなくてよかつた。

みんなも私の発見を喜んでくれる。
オハラは、うれしそうに
私の両手を握って上下に振っている。
思わず私もやつている。

何だこの距離感は。

その後、空氣は変わり。

どんぐり、はっちゃきは和解し
仲介としてオハラを立てた
オハラは靈感があるのか

次々、ある程度近くの場所までいざなってくれる

さらに、あなたはスパイかどんぐり。

時々、山の中で大音量の「ゴッドファーザー」が鳴る。
携帯が通じるんだね。（やるな A B）

すぐに他の男子チームと連絡を取り合つて情報交換。
本当にどんぐりは素晴らしい。
どんぐりが情報をしいれて
提供する。

なんでも、全問正解は、高級な肉らしい。

なんで肉なのか。

家らは野獸か。草食系はどうした。
本当にわかりやすい学生課だ。

さらに、オハラやはつちやきも
私は積極的に行かないことを見越して
通りすがり班の女子と全面協力。

どの班も夕飯がかかっているので必死だ。

この時点で、学生課のねらいは達成されたと
言えよ。づ。

よくやつた学生課。

くやしいが、よっしーーー。

もちろん、あなたの考え方でないと思われるが。
みんな一致団結してるよ。

麗しき隣人愛だよ。

その後も、森を抜け、丘を越え、
ちょっとした山を登り、

ちょっととした山では、オハラに手も差し伸べて
あげました。

自然にできた自分が怖い。

そして、

どんぐりのベストはドリームの
ポケットのようにいろいろでてきて

15時くらいには

携行食と言つて

カロリー メイトや餌が出た。

遭難しても野宿できそうな勢い。

本当にしたらいやだけど。

なんやかんやで

15時少し過ぎには

だいたいのところをまわり

後は「ゴール」という時。

突然、それは起こってしまった。

ゴール目前（後書き）

なし

ドクター ハリー (筆書き)

なし

ドクター二ト一

先頭を行くべくべく

続いて歩く

はつちやき

私

オハラ。

「はつちやき、

もし

「くじ当たつたら何につかう。」

しゃべり疲れて

私はそんな質問をした

オハラは意外に

あまりしゃべらず

聞いているのみ

会話は

常に私と

はつちやき

今までの会話の延長で

だれながら行く。

はつちやき

「ばつかじやない」と

笑いながら

振り返るつとつて

氣をとられ

そのまま足がもつれて

尻餅をつく

いたああああああい。

悲鳴に近い

驚いてどんぐり

振り返る

見れば今まで歩いていた
何のことはない下り道

だが、大きな木の根が
道の中央をはしっていた
あまりのくだらない質問に
力がぬけ

そこに足をとられたらしい

明るいはつちやきが黙り込む
懸命に大丈夫を繰り返すが

顔も青い

オハラがすぐに

駆け寄り

足を見る

友情が深い

まつたくだ

しょうもない質問に
色をなくした

続いてどんぐり

冷静に

ピンクの線が何本もはいつた

ブランドの靴をぬがせ

靴下もぬがせて

足をさわって

痛みを探る

指でさわって

押してみる

はぢやきの顔が

苦痛でゆがむ

声を出さないとこうが

はつちやきらしげが

相当痛いのが分かる。

こりゃあ、ねんざか

うちどころ悪ければ

骨打つてるか

いかんせん

固定したほうがいいなど

つぶやくようにな

どんぐり

経験があるのか

手慣れたもの

ちょっとしたドクター

まさに

辺境の地で

ドクター「トーカ。

(はい、今日のキーワードです)

なし

2次遭難（前書き）

なし

2次遭難

どんぐり

すぐに

草むらに消え

手頃な木の枝を探してくる

そうして

ジャケットから

包帯を取り出す

本当に恐れ入ったの鬼子母神

こんなところでギャグも
しうもないが

なんでも出てくる
ないものはないのか

手早く包帯を巻き

固定する

聞けば

どんぐり

救急救命の講習をつけたとのこと
誰にでも

簡単に止血や人工呼吸の方法を
消防署の人

教えてくれるらしい

その証の

黄色のカードをちらつかせる

まぶしいぜ

旦那

あんたはなんでも
できるねえ

しかしながら

この後どうするか

一同黙り込む

「置いてけ」

相変わらず言葉が短い

そして重い

痛さで

うめくよう

はちやきが言つ

ここに置きやり

みんなで救助を

求めにいくか。

何か違う気がする

オハラ

私が助けを連れてくる

少し涙ぐんで

決死の覚悟だが

はちやきを

落ち着かせるよつて

慈愛に満ちた

やさしい言い方

だめだ

2次遭難のおそれがある

どんぐり

どんじた

れつせと違つて険しい言い方

とげをなくすよつて私

大丈夫だて

宿舎なんてすぐつしょ。

甘くみんな。

どんぐり

いつにもなして

吼える

そつやつて遭難は始まるとのこと

こいこは慣れたどんぐり

何を慣れているのか？

私で

救援をもとめにいく方向に

固まつた

何かが頭の中で鳴る。

何か違う。

2次遭難（後書き）

なし

無白（無書號）

なし

告白

女子を残していいのか。

時刻はもうすぐ16時。

春とはいえ、
夕刻は近い。

山ガールズとはいえる。
女子一人は軽装だ。

「これは男が護るべきなのか。」

くだらないギャグの手前
私が残ることを
提案する。

どんぐり、
少し思案する
が
そうだな
それでいいつと
うなづく

どんぐり、オハラで
スタート方向に戻る

生きて帰れよ

手を軽くあげて
後ろを振り返らずに
どんぐりが行く
戦場に行く兵士のようだ
頼もしい背中が
縁に消えていく

頭上でからすが泣いている
その悲しそうな鳴き声に
夕方が近いことを知る

静けさがあたりを包む

「寒くないか」
はつちやきに聞く
「寒くない」と答えるが
腰に巻いていた
ウインドブレーカーを
肩にかけてやる

「ありがとう」
めずらしく素直だ。

突然

「昨日はごめん」
はつちやきが謝る
何のことかめんくらう。

どうかラリアットか。

すっかり忘れていた。
まあどうでもいい。

それより足の捻挫か?
そちらの方が心配だ。
痛まないか聞く。

まあ、痛いだろうが。

「話したいことがある」「改まつてはっちゃきが言つ。
なんだ告白か。
動搖を隠して
「金ならないぞ」
といきがる。

なし

因縁の対決（前書き）

なし

因縁の対決

実はオハラの事なんだけど
はぢやきが話し出す。

なんだそっちか
安心するのか
どぎまきするのか
自分でも

わけがわからん

語り出した内容は
高校でのいじめのことであつた
やはり、正義感の強いはぢやき
百合様が許せなかつたらしい。

わーらーべーは
みーたーりー

表の顔と裏の顔
そこを
たちどじろに
見抜く
臨時音楽教師
やるな。

K G B が、 M I 5 が。

そして

因縁の対決に。

やるかやられるかになつたそつだ。

オハラがはじまりの
はずが

因縁対決に巻き込まれて
本当に悪かつたと
はちゃきは、言つ。

例えば、と

ことわり

こんなことをされたんだと。

トイレで、上から水をかけられたり
さむい

そして、なんと古典的。

女子校、女子特有の陰湿さを
感じる

こわい。

トイレにもいけないのか

机の中の
教科書に

カッターの長い刃がはさまつていつたり
こわつ。

周りにも氣づかれずに
するんだろう

さらに複数関与で
連携プレーだ

しかしこたえたのは

挨拶だつたそつだ

はつちや きは

じいさん に 礼儀は
たたき込まれて いたから
しないと 気持ち悪い
また

がんらいの 負けず嫌い
そんな事で 信念を
曲げるわけには・・・

そして オハラも

フランスは

一度会つたら 頭見知り

だから

ハグや 挨拶、あたりまえ

だから

つらかつたらしい・・・

さらに

高校に編入する時

絶対に

自分で 教室に入る時は

日本式に 挨拶すると

心に 決めて いたらしい

お母さんからの

日本になじむための

心からの

アドバイスでも あつた ようだ
だから

やめることが

敗北と思いつめていたらしき
また、母を裏切ることになると

もうりん

お母さんは、

いじめのことを

知らない

シスターの振る舞いや

名門に

安心してこらのだらう

お母さん

日本はそんなに平和で

ないですよ

学校なんて

いろいろが渦巻いて

かえつて

ややこしい

閉鎖感、閉塞感を感じます

因縁の対決（後書き）

なし

Hikanengariyon (前書き)

なし

エヴァンゲリイオン

今さらながら
まあ、大学に入学して
よかつたか
自由だ
付属からうちにも
相當ながれてきている
らしいが
数が数だけに
分母だよな
濃度が薄まっているだろう
なんだか
中学理科の問題か
濃度も苦戦した
しかしながら
本当にきたないいじめの
エトセトラ。

がつかりの反面
よくここまでこれた

話を聞けば聞くほど
感じました

そしてまだまだ
子どもが子どもなら
親も親

百合様の父は
泣く子も黙る

市の市議会議員様

噂によると陰のボス

当選歴十数回

市議会議長も歴任らしい

そして

学園にも相当

寄付を積んでいるらしい

表の顔と裏の顔

それはそれは学園も
ちょっとやそつとでは
手をだせない
完全なバリア
まさに

エヴァンゲリイオン
のエーティーフィールド。
碇シンジも
真っ青だ。

強力だ。

強い。強すぎる。

すみません。

3日ほど旅行に出るため
小説を休みます。

エヴァンゲリイオン（後書き）

なし

冷たい手（前書き）

なし

冷たい手

お待たせしました。
この世に戻つてきました。

百合様のお父さんの話

権力は
あればいいのか
一つ取ると
次もとりたいのか
そんな中
わりを食うのは
やはり一般市民
世の中の多くの人は普通です

泣くに泣けず
なきにしまる

大阪市

さてさて
話を戻そう

はちゃきも
誰かに
伝えたかったんだろうね
この危機的な状況で

やはり人間

危機的だと

最後に

これを託したかった

言いたかった

伝えたかった

それが

あるのだろうか

空を仰ぐ

夕闇が濃くなつてきましたようだ

だめだこのままでは
はっちゃきを

おぶつて

行こうか

でも

迷うんではないか

二次遭難

どんぐりも

「絶対動くな。」と

言つていた

30分は経つただろうか

足音は全く聞こえない

氣配もない

寒くなかろうか

はつちやきの手を握る

はつちやつきがビクッとした

冷たい

足はどうか
さわってみる
やはりまだ痛いらしい
少しはれている感じもする

冷たい手を

包んであげた
少しは温かいし
誰かに側にいてもらひつと
安心するだらう

手を握つたら

はつちやき

静かになつた
泣いているのか

それから沈黙が

続いた

私から

何か話をしようつと
思つたが

全く

浮かばない

冷たい手（後書き）

なし

ターミネーター（前書き）

なし

ターミネーター

眠れない時のように
数でも数えようか

そうはつちゃきに
言つたら
急に笑い出した
おかしなやつだ
そんなにおもしろいか

私もなんだかおかしくなつて
笑つてみた

大きな声で
笑つてみた
二人の声が
暗い森に吸い込まれていく
しかし
なんだかすつきりした

人間大きな声を
出したり
思いつきり笑つたりすると
若返るつて
前に聞いたな
人間の原点に
戻れるのだろう

突然。。

本当に突然。。

遠くから懐中電灯の
灯りが

声も聞こえる

何人かいるようだ

やつたあ

助けが来た

本当にうれしい
思わず涙が出た

男のくせに

なんばしちょっと
泣くんでない

天国の

大好きだつた

時々私に渴を入れる
ばあちゃんの声が
聞こえるようだ

はつちやきも

本当に安心したのか
力がぬけたようだ

のつペり顔の

なんだか印象に残らない
男が先導だ

年齢不詳

いや若いのか

どうやら

施設の管理人らしい

後ろに続くもののたちも
同じく印象に残らない顔だ
たんかを持つてきている

そしてどんぐりが
いる

戻つてきてくれたんだ

私が氣づくと

ニコッと笑つて

アイル ビー バック

親指を立てる

あんたはターミネーターかい

というか

シユワちゃんかい

こないだ

けがして7針縫つたぜ

つつこみどいろ

満載だ

そこで

氣がぬけた

ターミネーター（後書き）

なし

たんか（前書き）

なし

なんか

「」ちらりも助けなきや

俺が護るとい
う意
識が働いたか

はつちや
元に

かがんで

施設の無表情が

足を見る

どんぐりと

同じ事をしてい
る

さすがどんぐり

医者ではないが
何度もこの種目で
けがをした人を
みてきたのだろう

重い顔をして

一言

大丈夫

ただのねんざです

おいおい

重い顔をするなよ

びびるぜ

つていうか

これがいつも顔ですって

ぐつたりしながら
はつちやきを

そおつと

たんかにのせる

私が後ろを持とうと
したら

職員その2

職員その3が

これは私たちの仕事です
そういうて

素晴らしい息のあつた連携

プレーで

静かに

しかしながら

早足で

運んでいく

ひよいひよいと

川の飛び石を渡るような

軽快さだ

さすが

山慣れしている

5分くらいしただろうか

突然

目の前が急にひらける

なんのことはない

森を少し行けば
すぐに
グランドだったのだ
スタートした時の道とは
反対に出たが

おいおいおい
どんぐりを
見る

どんぐり
いやあーうちらも
迷ったんだよ
頭をかく
あらぬ方を向く
嘘がわかりやすい人だ
どこ、見てんだよ

二人っきりにする
作戦だったのか
よくわからん
どんぐりは

たんか（後書き）

なし

祝 60話 映画のハピティシーン（前編）

なし

祝 60話 映画のワストシーン

はるか向ひつの

グランドに

遠くで

一人佇む人がいる

背が高く

すらりとしている

オハラだ

うちらの姿を

見て

すこく大きく

手を振る

何度も何度も手を振る

本当に一生懸命

手を振っている

泣いているんじゃないかな

だいぶ近づいたら

オハラが向こうから

駆けだしてきた

そんなに急いで

転ぶなよ

すごい勢いだ

息せききつて

やつてきた

大丈夫

はつちやきのたんかに

駆け寄る

はつわやき

ニコッと笑つて

大丈夫

オハラも

力がぬけたようだ

肩でわかつた

私の方を見る

よかつた

目でそう合図していくよつだ

何もしゃべらない

でもその目に

きらりと光るもののが

あつたのは

見間違いだったか

たんかと並行して

歩きながら

はぢやきに

言葉をかけている

そのまま医務室に

行くらしい

明るいところで

もう一度みてみるそ�だ

よかつた

あとは二人にまかせよう

どんぐりと並んで

見送る

いいムードだ

よくある映画の最後のシーン

主人公は

いつもかつこいい
氣のきつたことを
ぼそつと言うんだ

おれもなんか

どんぐりに言つてやううと

考える

しばし沈黙

俺が言おうとする

そこへ

先に口をはさむ

どんぐり一言

メシだ

ムードもなにも
あつたもんじやない

がっかりだ

私の落胆にかまわず
どんぐり
宿舎と反対の方に
歩き出す

ビレッジへ行くのだ

祝 60話 映画のベストシーン（後編）

なし

「一九四〇年五月、アーヴィング・マクダーミットは、『アーヴィング・マクダーミットの日記』を出版した。この書籍は、アーヴィングの死後、彼の娘の手によって編集されたものである。

なし

フードファイター　いよいよ駆走です

スタッフ黙つて足早に
歩く

遠くで

ざわめきが聞こえる
なんかがやがやと
みんなが集っている
そして、明るい
火をたいているのか

そうか

カレーか

ラリーの景品は
カレーだもんな

でもうすらほ・・・

騒ぎで

作ってない

食べれるのか

どんどん

どんぐりはかまわす

先に行く

学生課のヨッシーのところだ
一直線に向かう
迷惑をかけたので
仁義を切るのか
あやまりに出頭か

そして

また大目玉か
クラクラする

ヨッシーの目の前には
火が燃えている
そんなに燃やして
大丈夫かという
ぐらい
燃えている
熱いぜ

そしてそこには

大鍋が
ぐつぐつと
カレーが煮えたぎっている

ヨッシーの心の中なのか

一言
食べ
そう言って
ご飯の大盛りを
渡してくる
後は自分でカレーを
よそえということか

渡すと何も言わずに去る

いい奴なのか

謎が多い

どんぐりも
裏で手を打つていたのか

心得ている

まさに情報部員

いや

諜報部員

それにしても

食べ物の恨みはこわいからな

どんぐり

よそうやいなや

がつがつ

一言もしゃべらずに食べる
すごい

圧倒される

相当腹がへつっていたのだろう

その様子を見て

私も食べなきゃと

思う

いつもは人が食べているので
お腹がいっぱいになるが

今日は

食べる

もりもり食べる

そうじないと

倒れてしまう

食べたら

はつちやきが

元気になるような氣がしたからか

なんだかしらないが

涙がでてきた

涙はどんどん

出てくる

なぜ泣くんだけう

鼻水もでてきた

でも食べる

無事でよかつた

生きててよかつた

どんぐりも

何も言わずに食べる

もくもくと

二人で競争しているようだ

フードファイターか

いつもなら無理と思うが

今日はなれそうな氣がした

遠くで歓声が聞こえる

誰かが炎に

食用油でも

かけたのだろう

ざわめきとは

対照的に

静かだ

星がきれいだ

こうして2日目は終わった

フードファイター こよこの駆走です（後書き）

なし

// ランプハイインポジタル（前輪）

なし

//シションインポッシブル

はつねや きは
朝食にこなかつた

オハラも同じく
姿を見せない
どうしたのだろう

まったく情報がない

相変わらずポテト大盛りを
むしゃ むしゃ
さらに皿をタワーのように
積み重ねている
どんぐりに聞く

むむ

・・・

珍しいことに
情報がないらしい

箱口令がしかれているのか

頑張れ

ミッションインポッシブルどんぐり
すごいぞ

今回、本家は

ドバイのタワーから飛び降りるらしいぞ

あおるが

まったく聞いていない

黙々と食べている。

他に左右されない

大物だ

大器晩成か

昨日の事件で

危機感から

体が反応

私もしつかり

朝食をとる

そういうや

早寝 早起き 朝ご飯

なんか大学の掲示板にあつたか

そこまで介入するか

よけいなお世話感

満 載

私もすんなり食べられる

きっと胃が大きくなつたんだろうつ

どんぐりが

満面の笑顔で

言う

なぜにやりと

笑う

フードファイター養成所か

わたしは
デブにはならん
安心しろ
皿は積み重ならない

//ミションインポッシブル（後書き）

なし

頑張れ タチヨウ俱乐部

さて今日の日程は
どうぐりに聞く

今日は3日目。

いよいよ

明日は本土に帰れる。
なんじゃそりゃあ。

どうぐり誰に言つてゐる

その後

どうぐり

くぐもつた顔で

今日がいよいよ出立つ。

なんだどうした
はつちやきたちか

急激悪化で
病院に搬送か

一抹の不安がよぎる

その後に

語り出した

どうぐり

なんのことはない

うちらの親分
教授との面会らしい

私が大笑いする
くつだらない。
上にへつらうな

大きな声で笑う

どんぐり

とても真面目な顔で一言

干されるよ

なんでも

どんぐり情報網によると
(以後MID)

(おいおい
略せばいいもんじやないでしょ)

(そしてMIDって何)

まあいつか

学生課は、IJKの合宿

第一弾の文学部を

40名ずつ

5クラスにわけ

IKA

IKB

IKC

IKD

IKEと

クラスわけしたらしい

らしいは私だけで

みんなは

くだらない

くそ長い

オリエンテーションで

しつこく

くどく

聞かされたらしい

さらに

同じく教育学部も

らしい

頭は2か何かだけど

そこで

軽く

リアクション

おいおい

聞いてないよ

ふりもしてしまった

ダチョウ俱乐部か

(というかダチョウ俱乐部

パンクの誰かと組んで

楽曲を作つたらしい

こないだ配信されてた)

(「聞いてないよ」

が

パンクになつてた

いがいにかつこよかつた

誰かバンド名教えてくれ)

誰に言つているんだあんたは

聞いてるのか

どんぐりが

怒つたように言つ

はいはいクラス分けまでは

そして今更ながら

私は

1—E。

おお、いいクラスだね。

自分のギャグに

我ながらうける。

わつはつあは。

つぼにはまつたか

自分で言つて

自分で大爆笑

笑いがとまらない。

おいおい

俺つてこんな

キャラだつたか

頑張れ ダチョウ俱楽部（後書き）

なし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3881y/>

風のグラスゴー

2011年12月1日20時02分発行